2017年度
ミラークよこすか

事業報告

社会福祉法人　電機神奈川福祉センター

目次

1.　事業の概要

（１）　目的・・ 3p

（２）　法人設立と施設設置の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3p

（３）　施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3p

（４）　2017 年度事業目標と年度末事業結果・・・・・・・・・・・・・ 4p

2.　2017 年度事業報告

（１）　利用者の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6p

（２）　訓練プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8p

（３）　就職活動ナビゲーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13p

（４）　就労支援と定着支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15p

3.　2018 年度事業目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17p

1. 事業の概要

（1） 目的

障害を持つ人が社会自立できるよう支援する。

（2） 法人設立と施設設置の経緯

1972 年、電機連合神奈川地方協議会（以下、地協と呼ぶ。）は、第 20 回定期大会において、労働組合としては全国に先駆けて障がい福祉活動を開始した。地協は、神奈川県内の電機・電子・情報機器関連産業に働く組合員で組織された産業別労働組合である（2015 年 3 月末現在 109 単組・支部、組合員数 75,736 人）。障害をもつ人も「ともに学び、遊び、育ち、働き暮らせる社会」を目指した障がい福祉活動は、国際障害者年の理念でもある「ともに生きる社会づくり」への大きな潮流につながった。

この活動を 20 年にわたり続けてきた間に、障害をもつ子どもたちの育ち学びあう場は広がり、選択できるようになってきた。しかし、学校卒業後の進路は依然として厳しい状況が続いていた。

そこで、地協の障害福祉活動のさらなる展開として、1991 年に「電機神奈川福祉センター設立準備委員会」を設置し、1995 年 3 月に神奈川県より社会福祉法人の認可を受けた。

1996 年には「ぽこ･あ･ぽこ」が事業を開始（「横浜南部就労援助センター」は法人設立前（1992 年）に事業を開始）し、これまで横浜、川崎、湘南地域で、障害者の社会自立や一般就労を中心に支援を行ってきた。

2013 年に新たな事業展開を検討し、横須賀地域での障害福祉サービス事業所開設に向けた調査を開始した。2014 年 10 月には「横須賀新事業所開設準備室」が設置され、2015 年 1 月 1 日に「ミラークよこすか」が事業を開始した。

（3） 施設概要

【事業所指定】（2015 年 1 月より）

- 法的根拠：障害者総合支援法
- 事業指定者：横須賀市長
- 事業所番号（サービス種類）：1411901760［就労移行支援事業］
  （2017 年 4 月 1 日自立訓練事業（生活訓練）廃止、就労移行支援事業増員）
- 指定日・事業開始日：2015 年 1 月 1 日

【利用対象者】

- 原則として 65 歳未満の知的障害者・精神障害者
- 定員：就労移行支援事業 20 名（2017 年 4 月 1 日変更）

所在地	横須賀市大滝町 2-15-1 横須賀東相ビル 6 階		
交通機関	京浜急行線 横須賀中央駅より徒歩 4 分		
Tel	046-821-3450	Fax	046-887-0480
開設年月日	2015 年 1 月 1 日		
建物構造	鉄筋コンクリート造 9 階建（横須賀東相ビル内）		
面積	専用部分 219.17 ㎡		
設備内容 （共用部分）	食堂・作業室 1・作業室 2・男性ロッカー・女性ロッカー・倉庫・事務室・相談室・ （男性トイレ・女性トイレ・給湯室）		

（４）　2017 年度事業目標と年度末事業結果

平成 29 年度目標	平成 29 年度 事業報告
重点目標	
● 自立訓練事業のニーズ調査や事業継続性の検証の結果、平成 29 年 4 月に自立訓練事業を廃止し、就労移行支援事業の定員を 20 名に増員させます。 **● 自立訓練事業の廃止と就労移行支援事業の増員に伴い、就労支援に関するプログラムの充実を図ります。**	**● 自立訓練事業の廃止と就労移行支援事業の定員増を予定通り実施し、利用者の事業移行等についても滞りなく行いました。** **● 就職活動やそれに伴う内容を中心に行う新プログラム「就職活動ナビゲーション」をスタートしました。**
1）就労移行支援事業　（20 名定員）	
● 新規利用者 10 名を受け入れます。 ● 1 日あたりの平均利用者数 18 名を目指します。 ● 年間 10 名の就労者を輩出し、就労支援機関としての認知度向上を目指します。 ● 10 名の利用者に施設外実習の機会を提供します。 ● 障害者就業・生活支援センターやハローワーク等と連携しながら、横須賀・三浦地域での職場開拓に取り組みます。 ● 就職活動や就労に関するプログラムの割合を増加させ、就職活動や就労準備性の向上にこれまで以上に注力します。	● 新規利用者 11 名を受け入れました。 ● 1 日当たりの平均利用者は 14.75 名でした。 ● 12 名の就労者を輩出しました。 ● 10 名の利用者が施設外実習を実施しました。 ● 12 名の就労者の内、6 名が横須賀市内の事業所（就労先）へ就職しました。 ● 平成 29 年度より新プログラム（就職活動ナビゲーション）を開始し、19 名の利用者にプログラムを実施しました。
2）定着支援	
● 就労者一人一人に合わせた支援をプランニングし、就労後 1 年間の定着率 90%以上を目指します。 ● 就労者を中心としたイベント等の開催を企画し、ミラークよこすかと就労者の繋がりを強化することで就労支援に生かします。	● 年度内に就労後 1 年を迎えた利用者の 1 年間の定着率は 100%でした。 ● 9 月と 12 月に就労者と利用者の交流会、3 月に就労者のみの同窓会を開催しました。12 月は日中開催のため低い参加率でしたが夕方開催の 9 月と 3 月は全就労者の約 90%にご参加いただきました。

3）運営全体

● 日々のミーティング等で、支援や苦情内容の振り返りを行い、事業所としての支援の在り方を適宜検証していきます。	● 苦情が上がった場合は都度職員間で確認と対応方法の検討をするとともに、毎月振り返りを実施しました。支援プログラム等の振り返りを適宜実施し、年度内にプログラムのブラッシュアップを実施しています。
● 年間 15 名以上の実習生を受け入れます。	● 29 名の実習生を受け入れました。
● 事業所内における災害ゼロを目指し、職員・利用者共に安全に対する意識向上に努めます。	● 施設外作業先での転倒による打撲、帰宅時に転倒し頭部を負傷の 2 件の通院に至る怪我が発生しました。2 件とも既に完治しています。
● 地域の関係機関との会議に出席し、連携力の向上と情報収集に努めます。	● 主任、就労支援員を中心に横須賀地域の就労支援、相談支援関係会議に継続的に参加するとともに、参加する会議が主催する研修会の講師等を実施しています。
● 専門性や業務遂行に関わる事業所内研修を実施し、職員のスキル向上と業務改善等を図ります。	● 事業所内研修を 4 回開催しました。支援方針、プログラム運営に関する内容をロールプレイングを取り入れて実施しています。

2. 2017年度事業報告

（1） 利用者の状況

2017年度は大きな事業変更を実施することから始まる年度となった。2016年度まで実施していた自立訓練事業（生活訓練）を廃止するとともに就労移行支援事業の定員を14名から20名へと増員することを前年度決定したためである。2016年度の上半期より事業変更に向けて準備やご説明等を行っていたため、スムーズに実施することができている。

2017年度は11名が新たにミラークよこすかの利用を開始した。年度初めの新規利用者は比較的多いものの、年度途中に利用を開始する方が少なくなっている。1日あたりの平均利用者数は14.7名であり、事業変更で利用者数が減少した影響があるものの、想定以上に少ない利用人数であった。また予想よりも多い就労者を輩出したことも原因であり、新規利用者よりも就労者の方が多い状況となった。

利用者の障害種別は知的障害が最も多く、全体の約8割を占めている。精神障害については1級から3級まで全ての等級の方が利用しており偏りはない。また、障害者手帳を未取得の方も利用されている。年齢層は10代～20代が約8割を占めており、若年者の利用が多いが40代の方も定期的に利用されている。居住地は事業所所在地の横須賀市が最も多く、次いで横浜市金沢区在住の利用者が多い。

表1.月別利用者動向（就労移行支援事業）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用		5	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	11
退所	就労	2	1	1	0	2	1	0	0	3	1	0	1	12
	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
利用者数		18	19	18	18	20	18	15	15	12	12	11	13	

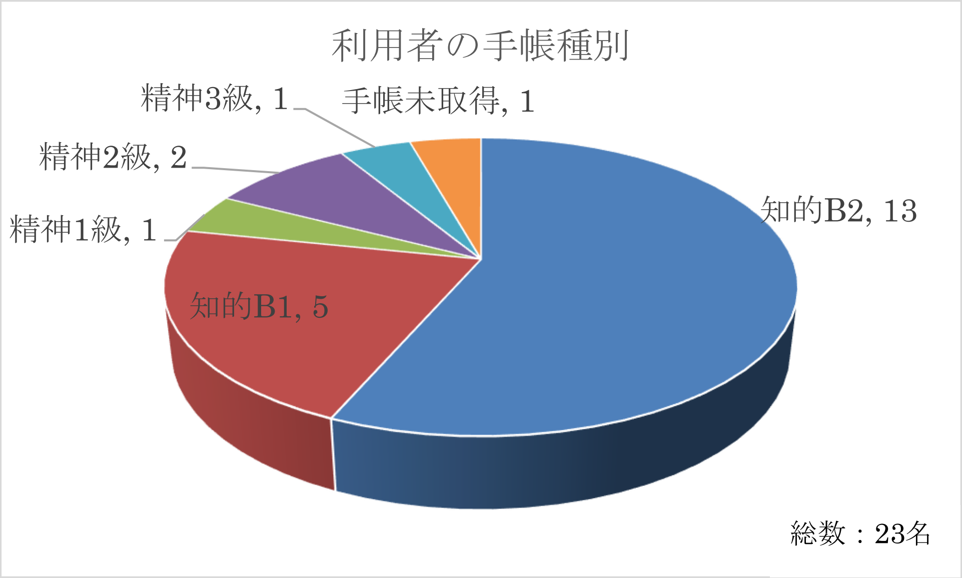


図 1.利用者障害種別（2017 年度中に利用実績のあった方）

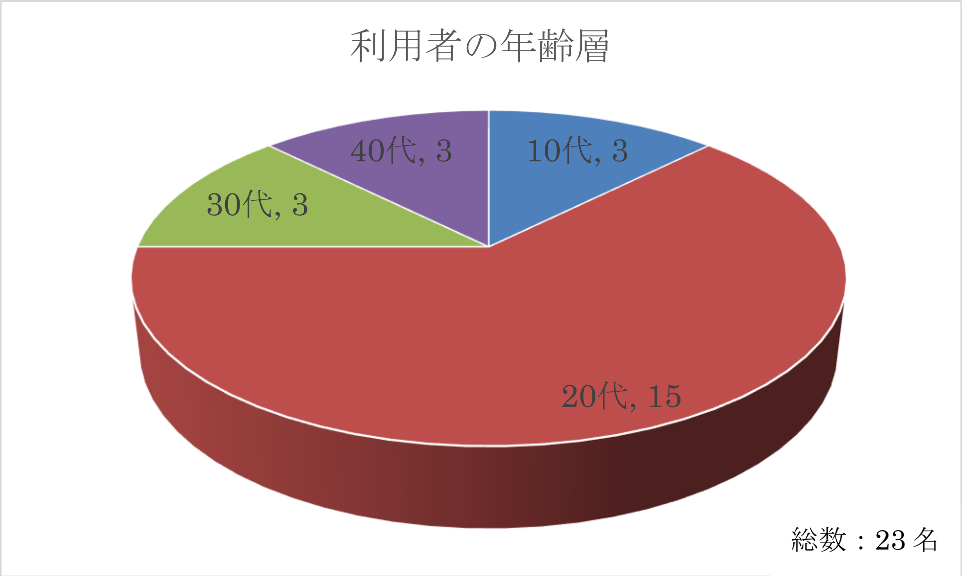


図 2.利用者の年齢層（2017 年度中に利用実績のあった方）

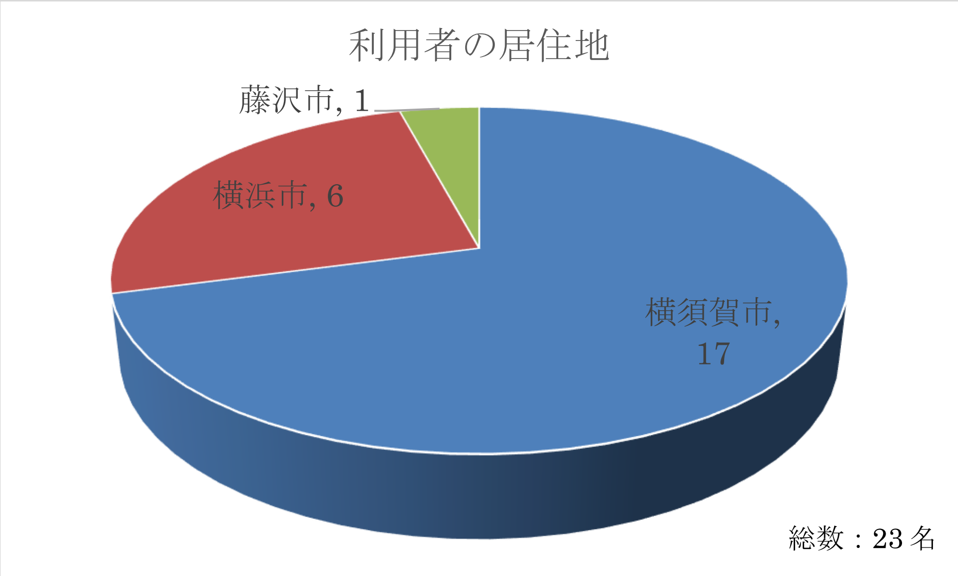


図 3.利用者の居住地（2017 年度中に利用実績のあった方）

■　就労アセスメント

2017 年度は、3 名の就労アセスメントを実施した。ミラークよこすかの就労アセスメントは、就労への可能性を評価することを目的に 1～2 週間の利用契約を結び実施している。実施人数は前年度比 4 名の減少となっている。

表 3.就労アセスメントの実施状況

紹介先	人数
養護（特別支援）学校	1 名
相談支援事業所	1 名
自治体	1 名

居住地	人数
横須賀市	1 名
横浜市	1 名
逗子市	1 名

（2）　訓練プログラム

①　訓練のスケジュール

訓練は月曜から金曜（祝日を除く）9 時から 15 時までとしている。

9:00～9:10	体操・朝礼
9:10～10:30	訓練
10:30～10:45	休憩
10:45～12:00	訓練
12:00～12:45	昼休憩

12:45～13:45	訓練
13:45～13:55	休憩
13:55～14:55	訓練
14:55～	終礼

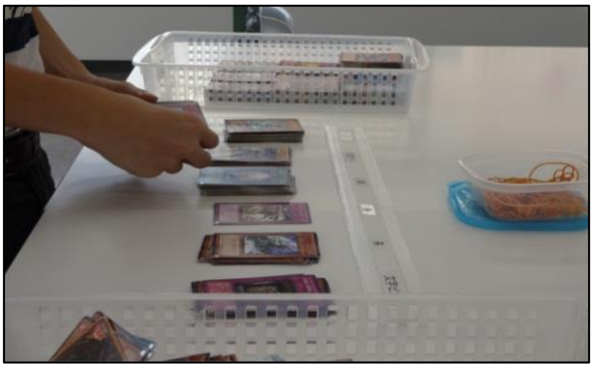
② 訓練内容

➢ 作業訓練

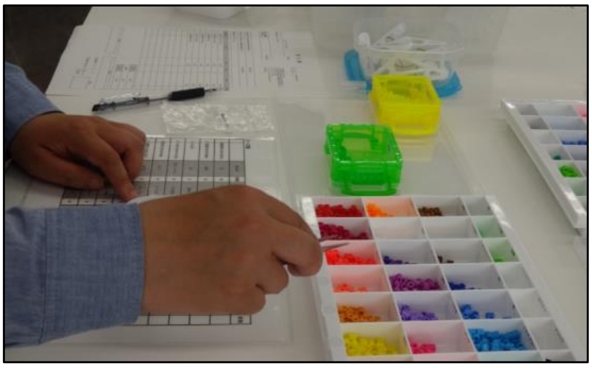
作業訓練は軽作業ワークサンプル（6 種類）、事務作業（PC 作業含む）、環境整備（清掃、備品管理等）、外部からの受注作業を行っている。

【CD】

【トレーディングカード】



【ビーズ】

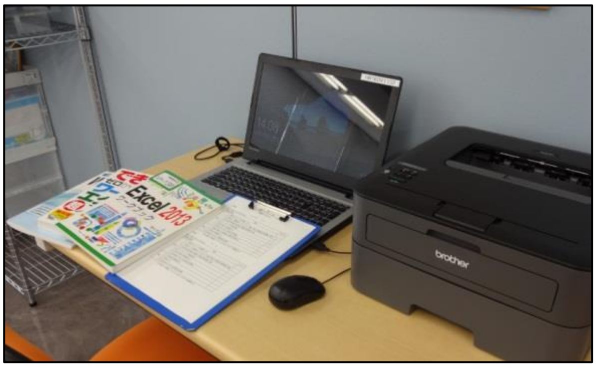


【納品チェック】

【ピッキング】

【メール仕分け】

【事務】



【環境整備】

【受注作業】

- 施設外作業

近隣の飲食店等で開店準備作業、食器洗い、清掃等の作業を請け負っている。

- 講座

講座プログラムは2016年度より実施している。作業訓練では学ぶ機会の少ない内容を抽出し、就労に向けた訓練をより効率的に実施することを目的としている。講座は 3 ヶ月で全12回（隔週プログラムは全6回）開催し、年間4サイクル実施した。受講講座は選択制とし、利用者本人の希望や課題感について職員と話し合いの上決定する。また、3か月ごとに状況に合わせて受講内容を見直す形をとっている。

＜講座一覧＞

講座名	開催頻度	講座のねらい	内容
ビジネスマナースタートアップ	毎週開催	基礎的なビジネスマナーの習得	「挨拶」「身だしなみ」「話し方」「社会人としての心がまえ」など、ビジネスマナーの基本を講義と練習で学びます。
ビジネスマナーステップアップ	毎週開催	ビジネスマナーを自身の強みとする	職場でふさわしい言葉づかいや態度、飲み会でのマナーなど、場面に応じたビジネスマナーを講義と練習で学びます。
楽しく元気に働くための生活講座	毎週開催	自立した生活送るための力の習得	生活するためのお金や、働くための生活リズムなど、暮らしの中で必要になることをシミュレーション形式で一緒に考えます。
コミュニケーション	毎週開催	コミュニケーション力に自信をつけるとともに良い人間関係を築くきっかけとする	相手と自分をどちらも大切にする「アサーティブコミュニケーション」を中心に学びます。身近な場面などから「ちょうど良いコミュニケーション」とは何か考え、会話練習を行います。
ディスカッション	隔週開催	コミュニケーション力の向上	決められたテーマについてグループで話し合い、話し合ったことを発表します。
色々な仕事を知ろう	隔週開催	就職先のイメージを作り	事務、販売、介護など、色々な仕事を動画などで学びます。実際に働いている人の 1 日のスケジュールや、仕事に必要な能力などを知り、就職活動に役立てます。
働く事例検討会	隔週開催	就職後のイメージ作り	働く上で実際にあった成功事例や失敗事例を紹介し、その事例についてグループで話し合います。
健康な体をつくろう！	隔週開催	体を動かす習慣を身に付ける	ウォーキングや室内でのトレーニングなどを行い、無理なく楽しく体を動かします。
スピーチ	隔週開催	人前で話すことに自信を持つ	好きなテーマで 1 分間のショートスピーチを行います。人に良い印象を与える話し方や人の話を聞く態度を身に付けます。

【スーツデイ】

ミラークよこすかでは、年に数回スーツ着用での外出プログラムを実施している。2016 年度は障害者雇用を実施している企業 4 社にご協力いただき年間 4 回の企業見学を行った。見学会では、働いている現場の見学に加え、経営者や人事等のご担当者から社員に求めるもの等についてご講義いただく等、ミラークよこすかにとって重要なイベントとなっている。

＜見学にご協力いただいた企業＞

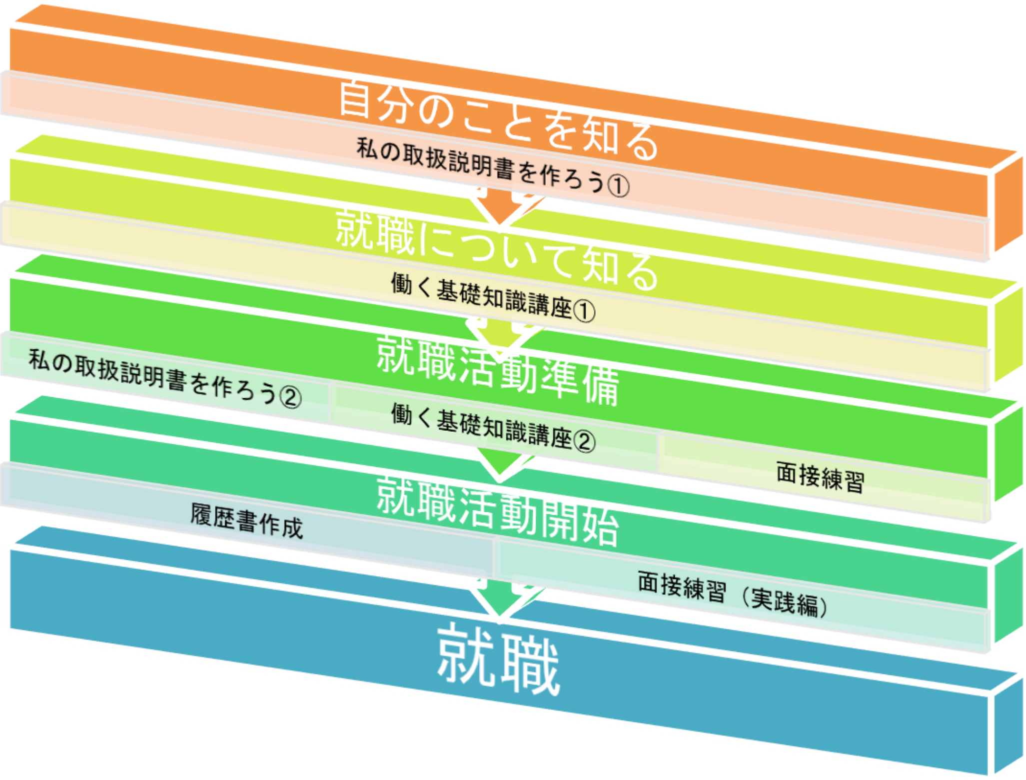
アズビル山武フレンドリー株式会社　様
ウェルシア オアシス株式会社　様
株式会社 日立ゆうあんどあい　様
第一生命チャレンジド 株式会社　様

【就ナビ（就職活動ナビゲーション）】

２０１７年度より、新プログラム『就職活動ナビゲーション（以下、就ナビ）』を開始した。就ナビは、利用開始直後に職歴や前職の離職理由等（新卒者は学校での評価等）の振り返りを行い、自分の状況を知るとともに、どのような課題が存在するのか、これからミラークよこすかでどのようなことに取り組んでいくのかを明確にする。次にこれから目指していく就職（働くこと）がどのようものかを知り、徐々に面接練習や履歴書作成等の実践的な訓練へと移行していく。

就ナビは、これまでの経歴や経験を今後に生かすこと、どのようなことに取り組んでいくかを自ら確認、認識すること、就職に向けて振り返りや実践練習を計画的に実施していくこと、これらを目的として実施している。

＜実施のプロセスとプログラム＞



＜実施プログラム＞

≪私の取扱説明書（トリセツ）を作ろう①≫
自分のことを整理、確認することでこれから取り組むことを考えます

≪働く基礎知識講座①≫
働くことそのものや雇用条件等を知り、就職について現実的に考えます

≪私の取扱説明書（トリセツ）を作ろう②≫
面接や働き始めた時に配慮して欲しいこと等を伝えられるようにしていきます

≪働く基礎知識講座①≫
給与、社会保険等についての知識を身に付けます

≪面接練習≫
繰り返し面接練習を行います

≪履歴書作成≫
必要に応じてサポートしてもらいながら履歴書を作成します

≪面接練習（実践編）≫
実際に応募する求人情報を元に面接練習を行います

私の取扱説明書を作ろう（以下、トリセツ）、履歴書作成、面接練習は個別の取り組みとし、働く基礎知識講座は複数名のグループで実施している。実施頻度は利用者ごとに異なり、一人一人に対してスケジュールを立てて実施している。比較的、トリセツは週に 1 回の実施で 4～5 回程度で完結、面接練習は週に 1 回程度を継続的に繰り返し実施していることが多い。

トリセツを作成することにより自己理解を深めることができ、その結果として面接場面で自身のことを話す際の材料のひとつに一役買っている。また、実際には入社を希望する会社が未定の段階でも面接練習を行うことにより、想定される質問をスムーズに回答することや、所作・表情・話し方など基本的な部分ではあるが重要かつすぐに改善が難しいことについても時間的な余裕をもって対策をすることができた。多数の求職者がいる合同面接会に参加した 6 名の利用者のうち 5 名が一次選考を通過したことは、事前準備を十分に行ったことによって次のステップへつながったケースと考えられる。

（３）　就労支援と定着支援

①　ミラークよこすかの就労支援の流れ

ミラークよこすかの就労支援は、基本的に以下の流れで実施している。

一般就労を果たした方は、採用に伴いミラークよこすかを退所することになるが、就職後の支援もミラークよこすかが中心に行う。

1 就職先の開拓

企業からの相談、ハローワーク求人、関係機関からの紹介など
必要に応じて、職場環境の確認や雇用条件の調整

↓

2 応募

履歴書等の必要書類の作成支援、面接対策、職場訪問への同行

↓

3 実習

日程調整、依頼書等の必要書類の作成、実習巡回、評価会への参加

↓

4 就職

雇用契約書等の確認、本人・家族と就労先との調整

↓

5 定着支援

就職後の定期的な職場巡回、面談、トラブル等の対応、退職時の支援

②　2017 年度の就労実績

2017 年度は 12 名の利用者が一般就労を果たした。12 名の就労者については、今後も引き続きミラークよこすかの職員が職場定着のための支援を継続的に実施する。

表 4.2017 年度の就労実績一覧

	就労先	仕事内容	ミラークよこすか在籍期間
1	株式会社 田原屋	バックヤード業務	22 か月
2	特定非営利活動法人 一麦	清掃業務	10 か月
3	社会福祉法人 十愛療育会	清掃業務	25 か月
4	第一生命チャレンジド 株式会社	調理補助業務	14 か月
5	株式会社 ドコモプラスハーティ	清掃業務	16 か月
6	社会福祉法人 心の会	バックヤード業務	3 か月
7	株式会社 武蔵野	軽作業業務	21 か月
8	横須賀共済病院	営繕業務	19 か月
9	東京ガス横浜中央エネルギー株式会社	解体・分別業務	9 か月
10	社会福祉法人 海風会	清掃業務	32 か月
11	株式会社 イトーヨーカドー	バックヤード業務	28 か月
12	株式会社 ドコモプラスハーティ	清掃業務	21 か月

※自立訓練事業（生活訓練）の利用期間を含む

③ 定着支援と離職の状況

ミラークよこすかでは、就労後期間を定めず定着支援を行っており、定期的な職場訪問（1～3 ヶ月に 1 回程度)、面談、就労先・ご家族・他の支援機関との連絡調整等を行っている。2015 年の開所以来、13 名の利用者が就職した。

2016 年度は 1 名が離職し、就労から 1 年以内の離職となった。離職の状況や支援の経過を振り返り、可能な限り上手く働き続けられる支援を行えるよう支援力向上に努めていきたい。

＜開所以降の就労者の状況＞

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	合計
就労者数	4 名	9 名	12 名	25 名
離職者	0 名	1 名	0 名	1 名
在職者（2018 年 3 月 31 日現在)	4 名	8 名	12 名	24 名
在職率	100%	88%	100%	96%

3. 2018年度事業目標

重点目標	● **就労定着支援事業を開始するとともに、事業実施のため行政機関との調整や対象者への丁寧な説明を行います。** ● **平成 31 年度に安定経営を実現することを目指し、平成 30 年度は広報活動とネットワーク拡大に向けた活動を重点的に実施します。** ● **年度内の第 3 者評価の受審に向け、利用者・ご家族等に理解を得るとともに、準備を滞りなく行います。**
1)就労移行支援事業（20 名定員）	● 新規利用者 12 名を受け入れます。 ● 1 日あたりの平均利用者数 15 名を目指します。 ● 年間 8 名の就労者を輩出します。 ● 8 名の利用者に施設外実習の機会を提供します。 ● 障害者就業・生活支援センターやハローワーク等と連携しながら、横須賀・三浦地域での職場開拓に取り組みます。 ● 就労後を見越した支援として、支援プログラム内で就労定着支援事業の概要説明等を実施します。
1) 就労定着支援事業	● 就労定着支援事業の事業内容等を早期に把握し、滞りなく事業実施をします。また、就労前や就労開始時を中心に対象者・ご家族等へ丁寧な説明を行い、事業内容をご理解いただけるよう努めます。 ● 就労後 1 年間の定着率 90%以上を目指し、ご本人、企業と連携するとともに丁寧な支援を心がけます。 ● 同窓会を始めとした就労定着支援者を対象としたイベントの開催方法を検証します。
2) 運営全体	● 新規利用者獲得に向けて近隣の普通高校等を訪問し、新たなネットワーク構築を図ります。 ● 学校や特定の支援機関等、対象を絞った事業所見学会の開催を検討します。 ● ポータルサイトを活用した広報活動に着手し、利用者獲得や知名度向上を図ります。 ● 日々のミーティング等で、支援や苦情内容の振り返りを行い、事業所としての支援の在り方を適宜検証していきます。 ● 年間 15 名以上の実習生を受け入れます。 ● 事業所内における災害ゼロを目指し、職員・利用者共に安全に対する意識向上に努めます。 ● 支援スキル向上や定着支援事業を始めとする制度知識の習得、並びに業務遂行スキルの全体的な向上のため事業所内研修を実施します。また、経験年数や役職に応じて個別にフォローアップや成長の機会を職員に提供します。